神奈川県における
かかりつけ薬剤師・薬局普及定着の取組み

かかりつけ薬剤師・薬局が持つべき３つの機能

服薬情報の一元的・継続的把握

- 主治医との連携、患者からのインタビューやお薬手帳の内容の把握等を通じて、**患者がかかっている全ての医療機関や服用薬を一元的・継続的に把握**し、薬学的管理・指導を実施
- 患者に複数のお薬手帳が発行されている場合は、**お薬手帳の一冊化、集約化**を実施

２４時間対応・在宅対応

- 開局時間外でも、薬の副作用や飲み違い、服用のタイミング等に関し随時**電話相談を実施**
- **夜間・休日**も、在宅患者の症状悪化時などの場合には、調剤を実施
- 地域包括ケアの一環として、残薬管理等のため、在宅対応にも積極的に関与

医療機関等との連携

- 医師の処方内容をチェックし、必要に応じ処方医に対して**疑義照会や処方提案**を実施
- 調剤後も患者の状態を把握し、**処方医へのフィードバックや残薬管理・服薬指導**を行う
- 医薬品等の相談や健康相談に対応し、**医療機関に受診勧奨**する他、地域の関係機関と連携

平成２９年度　神奈川県におけるかかりつけ薬剤師・薬局の普及定着推進事業

子育て世代、中高年世代、高年齢世代の３世代をターゲットとしたアウトリーチ型健康づくり推進事業

事業目的

薬局の外に薬剤師が出張して薬や健康相談を行い、県民の方にかかりつけ薬剤師・薬局の有用性を周知する。

ポイント

対象者を**子育て世代**、**中高年世代**、**高年齢世代**の３つの世代に絞り、薬局薬剤師による出張お薬相談を実施する。
➡幅広い世代の方に、かかりつけ薬剤師・薬局を持つことの有用性等を周知する。
➡各世代の方が求める健康情報等を把握し、その情報を今後の薬局薬剤師の効果的な取組のために役立てる。

事業の実施内容

出張お薬相談隊（子育て世代）

①保育園において、保護者の方を対象に、薬や健康等の相談や、子供の誤飲等に関する注意喚起等を行った。
②市の施設で、子供の模擬調剤体験コーナーを設け、併せて薬や健康に関する相談を行った。

出張お薬相談隊（中高年世代）

全国健康保険協会神奈川支部（協会けんぽ）に加入している事業所において、従業員の方を対象に薬や健康に関する相談を行った。

地域と共同したお薬等健康相談会（高年齢世代）

地域のイベント等でブースを設け、高齢者に多い疾患に関連する薬等の相談を行った。

アンケートの実施

保育園の保護者、事業所従業員及び薬や健康相談参加者にアンケートを行い、事業実施による効果及び各世代が求める健康情報やかかりつけ薬剤師・薬局の役割等を把握した。

事業の実施結果

出張お薬相談事業の実施回数及び参加者等

世代		実施地域	相談実施会場数	実施回数	薬剤師数（延）	相談者数	アンケート	
							事前	相談後
子育て	保育園等	伊勢原市 横須賀市 横浜市	保育園：7施設 子育て支援拠点 ：1施設	18回	51名	90名	232枚	64枚
子育て	模擬調剤体験	相模原市	総合保健医療センター ：1施設	1回	4名	12名	10枚	—
中高年		川崎市	事業所：6施設	6回	12名	52名	78枚	51枚
高年齢		小田原市 大和綾瀬	商業施設等：3施設	3回	72名	45名	317枚	54枚

事業の成果等

世代別の特徴の把握

薬局に相談したい内容

●子育て：子供への薬の飲ませ方・市販薬のこと

●中高年：自身が使用している薬・市販薬のこと

●高年齢：自身が使用している薬・ジェネリック医薬品

各世代の共通点の把握

薬局の薬剤師に望むこと

①薬の効果・副作用の継続的確認

②複数種類医薬品の相互作用の確認

③飲み忘れ等による残薬管理

意識の変容が見られた事項

●全ての世代において、今後、薬剤師に調剤した薬以外のことも相談しようとする意識の変容が見られた。

●薬剤師においても、幅広い知識の向上や多職種連携の意欲が生まれた。